

# 牧草と園藝



昭和三十三年三月一日 毎月一回 日券行  
雪印種苗株式会社

# 貿易自由化と農業

## ◆生産性向上に構造改善を◆

農林省農林漁業基本  
問題調査事務局長

小倉武

わが国経済の成長発展は貿易自由化を可能ならしめ、ままた貿易自由化なくしてはわが国経済の成長発展を期し難いといわれる。少なくともそのような段階が近づいているようである。むしろ自由化は農産物のそれを通じて農業に関係するばかりでなく、関連産業を通じ、さらには産業全般を通じて農業に影響する。いわば貿易自由化と農業の問題は農産物貿易だけの問題でなく、経済の成長発展と農業の問題にはかならない。そこで「農業も貿易自由化の例外であつてはならない」とする主張も、「農業は貿易自由化の例外でなくてはならない」とする主張も、この農業問題について正しい理解と見通しがなくてはならないであろう。

農業問題に立ち入る前に、自由化によってプラスになるといわれている点を検討しておく必要がある。

第一に自由化によつて為替や貿易の管理のためのむだや矛盾がなくなる。特に外貨割り当てに伴うプレミアムがなくなるといふことである。

第二は価格機能を通じて資源が最も合理的に配分されるようになるはずである。すなわち外国品との競争あるいは産業内部の競争のため合理化の意欲が生まれるというのである。

第三は生産調節、市況調整などについての自主的な熱意や実力が生ずるといふのである。

第四は外国から安い原材料や半成品が自由にはいることによつて価格を相当大幅に引き下げうる可能性が生ずるといふのである。

このような自由化の利点は産業の種類によつて大きく違つてあろうが、おそらく農業はこれらの利点によつてプラスとなることの最も少ない産業部門であらう。農業は為替や貿易の管理による副次的な利益を受けること少なく、また副次的弊害を受けることも少なかつたからである。のみならずプラスとして指摘される第二点こそ農業にとつては最も重大な問題である。

本来、農業生産は国内的にみて貿易や為替の管理によつて競争が制限されているといふことはなく、むしろいわゆる完全競争の状態であるが、自由化によつてこれがさ

らに外国農業と競争関係に立つことになり、したがつて「農業は貿易自由化の例外でなくてはならない」とする主張は十分に理由のあるところである。しかしこの主張も経済の成長発展と農業の問題の関係を考慮しなくてはならないであらう。

現在における農業問題は低所得にあるのであり、これは最も大きく就業構造の問題に結びつく。それだから貿易の自由化が経済の成長発展をいつそう促進し、就業構造の改善をもたらすならば、「農業は貿易自由化の例外でなくてはならない」という主張も再考を要することとなる。

ところで「農業も貿易自由化の例外であつてはならない」という主張は、現在における農業問題を正しく理解しているであらうか。

FAO (国際食糧農業機構) の統計資料

によつて、農業生産物の単位当平均投入労働時間を見るに別表のようになつていことがわかる。

農産品100kg当平均投入労働時間

日	小		牛		米	
	時間	時間	時間	時間	時間	時間
アメリカ	1.0	5.3	1.3			
イギリス	2.8	8.4	1.1			
ベルギー	4.3	6.2				
日本	5.0	7.2			4.9	0.1

この表によつてみるに労働生産性におい

### 牧草と園芸 三月号 目次

- ◇表紙写真 近づく花の季節 (北大植物園温室)
- ◇貿易自由化と農業……………小倉武 一…二
- ◇使い方で長所、短所のある堆厩肥……………城下 強…四
- ◇ヨーロッパの草地農業……………江原 薫…六
- ◇暖地における水稲早期跡地の青刈飼料栽培法(その二)……………水島 隆…一〇
- ◇家庭果樹の栽培 (四)……………田村 勉…三
- ◇東北地方における最近のトマト栽培と果菜類の有望品種……………高井隆次…一六

て非常な較差があるというよりむしろ隔絶しているというべきであらう。そして貿易や為替の管理下にあつてもわが国の農業者は低所得をなげいている。すなわち一日あたり労働報酬は小麦で五十八円(三十三年)、牛乳で二百十二円(三十二年)と推算されるのである。低所得のなかでそのいちじるしい低下を防止しているのは米と果実くらいであらう。米の一日あたり労働報酬は九百三十五円(三十三年)と推算される。このような状況のもとで「農業も貿易自

由化の例外であつてはならない」と主張するひとびとは、よほどの勇氣と経倫をもつ者に違いない。

**むろん貿易自由化の傾向と必要な農業保護の調整ということが現実の政策の問題であらう。**これは次の諸点を意味する。

第一は自由化と調和のとれた保護制度を創設することである。現在の政府による買入れ、売り渡しによる価格安定ないし価格支持政策は貿易自由化と調和しにくい。またこの政策の対象となる適格性をもつ農産物も限られている。それゆゑ不足払い制度（市価と支持価格の差額を生産者に政府が支払う制度）、反別補助金制度が必要となる。

第二に弾力関税制度（一定の輸入量を上回る数量に対し高率関税を課するか、市価が一定価格を下回るときに高率関税を課する制度）が考えられる。

第三は将来成長を期待され、しかも保護を必要とするものについては原則として関税の改正または輸入賦課金を実施し、輸入制限は例外とすることである。

むろん第一と第二の方法は行政的困難を伴うばかりでなく、第一の方法は慢性的財政負担を伴うし、第三の方法のうちの輸入制限は自由化に沿わない。これらの難点を伴う方法ないし制度がとられたとしてもこれができるだけ早く是正しようとするならば、農業の生産性の向上を目的とする構造改善を図らざるをえないであらう。貿易自由化と農業保護の調整は当面の措置であつても、より根本的には「構造改善は自由化

の前提であると同時に自由化は構造改善への刺激である」という認識が重要であるかもしれない。これは農業にとつてはきびしいものではあるが、早晩そういう認識のもので方針が確立されるほうが幸いなのではないか。むろんこの構造改善は単に農業の問題であるばかりでなく、経済の問題でもあるという認識が必要である。農業部門から非農業部門への労働力の移動と非農業部門から農業部門への資本の投入が必要だからである。のみならず自由化が商品と資本の国際的移動の自由を意味するならば、さらに発展して労働力のそれも考えなくてはならぬ論理になるであらう。（完）

今後の日本経済の進路が為替、貿易の自由化を離れて考えられぬことはいうまでもない。しかし、自由化のスケジュールをどう計画し、またそのための国内施策をどう準備するかは、日本経済自体の意志によつて決定されるものであることを忘れてはならない。というのは、自由化によつて世界の競争力を相手にすることの生やさしくないのを覚悟するのは良

### 経済時評

いとしても、自由化のもとでは、デフレの影響を避けられぬものと観念してしまふのでは、誰のための自由化であり、誰が自由化への道順を選択するののかといいたくなる。

下半期景気後退説の中に、自由化による物価の低落を原因として指摘する議論

## 御皇孫浩宮徳仁親王殿下御誕生記念植樹のお奨め

昨年四月、皇太子殿下御成婚以来、私も一億国民が、こぞつてお待ち申し上げておりました皇孫殿下が、二月二十三日めでたくご誕生なさいましたことは、まことに慶ばしい限りでございます。

この慶事を記念して、私達の町に村に、会社に工場に、はたまた学校に公園に緑の植樹を計画することは極めて意義深いことと存じます。

弊社では、この記念植樹のご計画に協

力させていただきますと念じ、今春次のような記念植樹用樹種について特別価格で、提供することいたしますので、何卒ご用命下さいますようご案内申し上げます。

### 記念植樹用樹苗

桜類（えぞ山桜、吉野桜、八重桜）プラタナス、銀杏（いちじょう）、白樺、垣根用エボク。

（大量のご注文については価格、その他ご照会下さい。ご相談申し上げます）

を時々みかける。輸入制限が撤廃されれば、原料の入手に当たつてのプレミアムは解消するだろう。また、割り当てによつて維持されていた競争上からの制限の解放は、企業の創意工夫を活発化するだろう。こうして、自由化による競争の復活は、コストの面のせい肉を取り去り、商

## 貿易自由化と景気予測

品価値の低落を招くだろう。しかし、この論理のどこに、需要が相対的に減少するというデフレ要因が存在するだろうか。この場合、商品単価当りの利潤は減少するかもしれないが、価格の低下による国民の実質的購買力の増加は、逆に市場を拡大させる効果を持つといえる。

もつとも、自由化のスケジュールとその準備のいかんによつては、海外からの有力な競争によつて、国内市場が収奪される心配もないわけではない。しかし、その心配は、自由化のスケジュールをより慎重にするなり、態勢の整備を真剣に進めれば解消するものではないか（事実、自由化のプログラムは、その心配の少ない原料から始められることになつていく）。いずれにしても自由化の好ましくない影響を避けられぬという前提での景気予測は、方法的に誤つていての一般の認識をミスリードするおそれさえあるのだ。